



PDA 即興型英語ディベート キーノートディベート（第 32 回）

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

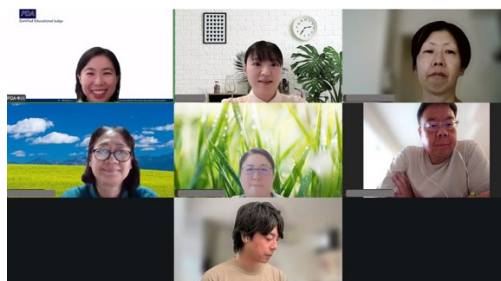
開催日時：2025 年 10 月 13 日（月・祝）10:00-11:30

会場：オンライン（Zoom）

参加者：6 名（ディベーター 3 名、ジャッジ 1 名、見学 2 名）

ディベートの様子

今月のキーノートディベートの論題は、“**Schools should prioritize hands-on disaster education over the use of digital technology.**（学校は、防災教育においてデジタル技術の使用よりも実体験を優先すべきである。）”でした。肯定側は、「実体験を伴う学びは真剣さが増し、記憶にも定着しやすい」と主張し、否定側は「経済的な負担」や「効率的な学びの重要性」を指摘しました。避難訓練などの実体験型の防災教育は、実際に避難行動を取ったり、消火器訓練や煙体験を行ったりすることで、被災時に生きる学びを得られると肯定側が主張する中、否定側は「行政や地域機関との連携が不可欠で、準備の負担も大きい」ため頻繁には実施できない」と現場の状況を踏まえ、鋭く切り込みました。さらに、デジタル技術を活用した防災教育は、生徒がすでに学校用タブレット端末を持っているため導入しやすく、家庭での復習にも適しているという特徴が挙げられました。



ディベート後の講評の様子

ディベートのフィードバックのあとは、キーノートレクチャーの時間です。キーノートスピーカーは大学院情報学研究科学際情報学専攻の吉田大介准教授でした。



キーノートスピーカーの紹介



キーノートレクチャーの様子

吉田先生からは、従来型の防災教育および災害体験学習における課題として、「実際の災害発生時の状況を具体的に想像しにくく、自分ごととして捉えにくい」という点、また「準備や実施にかかる負担が大きく、継続的に実施することが難しい」という問題点が指摘されました。これらの課題を踏まえ、先生が現在取り組まれている拡張現実（AR）技術を活用した防災教育の実践事例についてご紹介いただきました。さらに、従来のデジタル技術を用いた防災教育では、他の自治体や地域で応用しにくいことや、専門的な知識・技術を要するため導入が進まないことが課題とされてきました。吉田先生は、こうした制約を克服するための具体的な方策や、より多様な地域での展開を可能にする仕組みについても解説されました。レクチャー後には、参加者から自らの居住地域での応用可能性や実践方法に関する質問が相次ぎ、活発な意見交換が行われました。



キーノートレクチャーの様子

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・ 一步進んだ防災教育についてのレクチャーとても興味深かったです。ありがとうございました。
- ・ あまり気にしたことがない題材だったので、ディベートもキーノートレクチャーも楽しかったです。ありがとうございました。
- ・ いつも自分の専門外の講師の方のお話を聞くことででき、またそれに関するディベートができるので、私自身知識と視野が広がります。とても良い企画で、毎回楽しみにしています。いつもありがとうございます。
- ・ はじめての参加でしたが、大変勉強になりました。防災教育は企業でも重要ですので、参考にさせていただきます。ありがとうございました。
- ・ 「自分ごと化」させるための仕組みづくりや、横への展開を広げていくための取り組みが勉強になりました。AR 技術を用いて、普段通っている道や場所で火災が起きたら、地震が起きたら、浸水したら、とリアルにイメージができるようになるという点が防災意識の高まりにもつながっていくと感じました。